

グランシップ 子どもアート体験! 学校プログラム

たくさんのお子たちに
本物の芸術をお届けする、
アウトリーチ活動を実施しています。

STAGE

グランシップ子どもアート体験!学校プログラム 『人形浄瑠璃 文楽』出前講座

2017.7.13(木) 磐田市立豊田中学校 3年生 125名
2017.7.14(金) 御殿場市立御殿場南小学校 6年生139名
講師:人形浄瑠璃文楽座(豊竹咲甫太夫、鶴澤清志郎、吉田一輔、
吉田玉翔、吉田義太郎、吉田簀悠)



グランシップが一流のアーティストとともに、県内の学校へ出向く「グランシップ子どもアート体験!学校プログラム」。今回は、ユネスコ無形文化遺産である「人形浄瑠璃 文楽」の出前講座を磐田市立豊田中学校と御殿場市立御殿場南小学校で実施しました。文楽は、太夫、三味線、人形遣いが揃ってはじめて成立する人形劇。ほとんどの児童生徒のみなさんが、文楽を見たことがないということから、はじめに文楽という舞台が成立した歴史や、文楽という名前の由来などを説明しました。その後、文楽座のみなさんが、太夫、三味線、人形遣いの順にそれぞれの役割や道具の説明など、実演を交えながら分かりやすく解説。太夫の声の迫力や響きに驚いたり、文楽の三味線は演奏楽器ではなく効果音などの演出的役割が大きいく、太夫と息を合わせて音を出していることを知ることができました。人形遣いの解説では、ひとつの人形を3人で遣うこと、足遣い、左遣いの修行はそれぞれ10年ほどかかるということにびっくりしているようでした。また、普段見られない人形の仕組みを見た後、人形遣いに挑戦。見た目よりもずっしりと重い人形を片手で持つと、自分の右手で人形の左手を操

作する左遣い、中腰の姿勢のまま人形の足を動かす足遣いなど、人形遣いからは正面の人形の様子が見えないうこと、3人で息を合わせる難しさを感じました。最後には、体育館の舞台とは思えない演出で「伊達娘恋絆 鹿子く火の見櫓の段」を文楽座のみなさんが披露し、全員で鑑賞しました。日本が世界に誇る伝統芸能について、小学生や中学生のみなさんが理解を深め、実際に体験することで日本文化に誇りを持ち、その素晴らしさを世界に発信できる大人になってほしいですね。



知らない世界は子どもにとって将来の選択肢となり、将来を考えるきっかけとなると思いました。(先生)



このような素晴らしい伝統芸能が身近にあったことを知らなかった自分が恥ずかしく感じた。(生徒)

人形を動かす仕組みがずっと昔からあると思うと、伝統のすごさを感じた。(生徒)